



No. 1 4

2024年11月6日 発行

JR東労組新幹線協議会

発行責任者 近藤隆行

## 「第6回定期委員会」発言等に基づく申し入れ 幹本申1号の交渉を行う

**第1項 2024年3月6日に発生した121B列車郡山駅での大幅滑走以降の対策と効果を明らかにすること。また、今後のL編成単独運転における対策について明らかにすること。**

《組合》現時点で判明している原因は何か。

《会社》走行試験では①制動力、②車体の挙動、③台車の挙動、④ブレーキ制御の4項目、また、天候や季節、線路の状態なども検証分析している。何かわかり次第お示ししていく

《組合》2022年159Bの滑走した事象でCIの対策を行ったが、また滑走が発生している。それについてはどうか。

《会社》今回は他の要素があったと考えている。

《組合》全て併合運転、早めブレーキのシステム化など、働くものにとって安心感が得られるようにしてほしい。

《会社》早めブレーキをできるようにしてから、再発していないので効果はあるという考え。併合運転も121Bや160Bなど意識して併合やE8にようにしている。

《組合》L編成に併結する編成は営業の場合とそうでない場合があるが、全て営業にできないか。ドア鎖錠、NFB扱い等の負担が大きい。

《会社》運用の都合などで決めている。

《組合》原因が分からないなか不安を抱えながら業務をしている。所定列車はすべて併合運転できないのか。

《会社》不安を抱えている状態がいいとは考えていない。併合は運用の都合など最大限考えた結果が今の姿。

《組合》G編成は大丈夫なのか。

《会社》対象としているのはL編成だけではなく全編成を対象としている。また原因の一つではないと考えている。

《組合》原因が特定されていない中で対策をしているが、今の状態は安全と言えるか？

《会社》今の対策で起きないと認識しているが、最大限のことはやっていく。

**事象再発のリスクに晒されている乗務員の不安や恐怖の解消、  
お客さまへ安全・安心を提供するため引き続き併合運転を求めろ！**